

新型コロナウイルス感染症が病院経営に与えた影響を調べた調査があります。全国の約550の大病院が調査対象です。患者数は全体としては回復基調にあるものの、がん患者の入院件数の減少が目立ちました。とくに、胃がん、肺がん、大腸がんでは、4月、5月、6月と入院患者の減少幅が拡大しています。

なかでも、入院患者の減少は胃がんがもっとも顕著で、3月、4月、5月の前年同月比は、それぞれ、マイナス1・2%、マイナス7・2%、マイナス11・6%となりました。そして、6月はなんとマイナス19・6%と2割近くも減っています。6月の減少は大腸がんでマイナス9・8%、

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

# がん検診を受けよう

んでいると危惧します。

がんは、痛い病気、苦しい病気というイメージがあるようですが、これは亡くなる直前、せいぜい1カ月以内のことです。かなり進行しても、がんは症状を出さないことが普通ですから、早期がんではまず体調に異変を感じることはありません。

私は「自己超音波検査」で

することはできません。国が推奨するがん検診では、胃がんの他、肺がん、大腸がん、女性の乳がん、子宮頸(けい)がんが検査の対象です。

たとえば、大腸がん検診は「便潜血検査」、つまり検便です。ですから、コロナの感染リスクはほとんどありません。一方、胃がん検診、とくに胃力メラでは検査する医師と検査を受ける人との「距離」が近くなるため、感染リスクを感じる人も多いでしょう。

私も最近、胃力メラ検査を受けましたが、病院の感染対策は万全です。このままでは来年以降、進行がんが増えてしまいます。検査を受けていただきたいと思います。

(東京大学病院准教授)

乳がんでマイナス8・3%、肺がんでマイナス8・2%です。すから、胃がんの減少幅が突出しています。

前回も書きましたが、国立がん研究センター中央病院や

東大病院でも、4月と10月の胃がんの手術件数は昨年と同時期に比べて4割以上減っています。大規模な調査はありませんが、東京の大病院ではどこでも同じような事態が進

まっていますが、国立がん研究センター中央病院や